

在宅血液透析（HHD）導入患者拡大のために～介助者に関する問題～

長崎腎病院

田賀農恵 植木秀一 中山美季 羽田鮎子 佐藤泰崇 林田征俊 久保純子
白井美千代 丸山祐子 船越哲

【背景】

HHD は施設透析と比較すると様々な利点があり、QOL や生命予後の向上が期待される。しかし、様々な理由により普及は妨げられており、当院でも 10 年前より取り組んでいるが現在 5 名にとどまっている。

【目的】

当院外来維持血液透析患者に情報提供を行い、普及が困難になっている原因を明確にして今後の HHD の普及活動へ活かす

【対象・方法】

当院の外来維持血液透析患者総数名の 458 名うち、適応基準に沿ってリストアップした患者 56 名個々に情報提供を行い、HHD を躊躇する理由を分析する

【結果】

導入を躊躇する理由としては、介助者に関すること（介助者確保が困難、介助者の恐怖感が強いなど）が 28 名 50% と一番多く、次に現状の施設透析に不自由を感じていない 13 名 23.2%、自己穿刺や事故などの不安や心配は 11 名 19.6% であった。

【考察】

現行の医療法では、腹膜透析と異なり HHD には介助者が必要であり、普及の第 1 歩として家族の理解と協力、更に介護者の確保のために、問題の解決策を見出していかなければならないと考える。